

・・・・・・地震・台風・大雪・洪水・火災など・・・・・・

## ～いざという時のために～

災害は、いつ起るかわかりません。万が一の場合、冷静に行動できるよう、普段からの心掛けが重要です。

# 東北学院大学 学生防災マニュアル

### 重大な災害が発生した場合

大学は、重大な災害が発生した場合、災害緊急対策本部を設置し、在校中の学生には必要な情報の伝達および避難・退校時期等の指示をおこないます。

### — 学内にいたとき —

#### ●災害緊急対策本部の決定に基づく緊急放送

大学は、災害発生後、災害のレベルに応じて緊急放送を行ないます。

### —キャンパス内で地震にあったら！—

- 火気を使用している場合は、すばやく火の始末をする。
- ドア、窓を開け、避難口を確保し、あわてて外へ出ない。
- 机等の下に入り、落下物・転倒物より身を守り、非常脱出口を確保する。
- エレベーターは絶対に使用しない。
- 避難にあたっては、教職員の指示に従う。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限にする。
- 避難場所では、教職員の指示に従い、勝手な行動はしない。
- 大学は、正確な交通機関等の情報が取れ次第、社会的混乱回避のため、適宜、時差退校を指示する。

## ーキャンパス内で火災にあったら！ー・・・大声で知らせる・・・

- 火災を発見したら、周囲の人に知らせ、応援を求める。
- 小さな火災でも教職員に通報し、教職員の指示に従い避難する。
- エレベーターは絶対に使用しない。

## ー 学外にいたとき ー

- 在宅中の時は、そこにとどまり次のことに注意しましょう。
  - テレビ・ラジオなどで正しい情報を聞く。
  - 自治体の防災無線、消防署、警察署などからの情報にはたえず注意する。
  - 「学生安否確認システム」・「My TGU」等で大学からの情報にも注意する。
  - 不必要な火気は、できるだけ使用しない。
  - 消火器の確認、風呂やバケツに水を汲んでおく。
  - 身軽で安全な服装に着替えておく。
  - 貴重品・当座の必需品など、すぐ持ち出せるようにしておく。
- 通学・帰宅途中の時は、各自の判断で帰宅するか、大学に向かうようにしましょう。
  - 駅の放送をよく聞き、デマや無責任な行動に惑わされない。
  - 駅員や警察官の指示に従い落ち着いて行動する。
  - 車を運転している時は、路肩に車を止め様子をみながら安全な場所へ避難する。
  - ラジオ等で地震情報や交通情報を聞きながら行動する。
  - 自宅まで近距離の場合は徒歩で帰宅し、混乱が予想される公共交通機関は利用しない。
  - 大学の近くにいた場合は、大学へ向かい構内の指定避難場所に避難する。
  - 移動する際は、落下物等に注意し、塀や構造物から離れて行動する。

## ー 大学への緊急連絡先 ー

土樋キャンパス	学生課	TEL 022-264-6471
	学事課	TEL 022-264-6461
	教務課	TEL 022-264-6451
多賀城キャンパス	学生・厚生係	TEL 022-368-1120
	学務係	TEL 022-368-1119
泉 キャンパス	学生・厚生係	TEL 022-375-1151
	学務係	TEL 022-375-1141

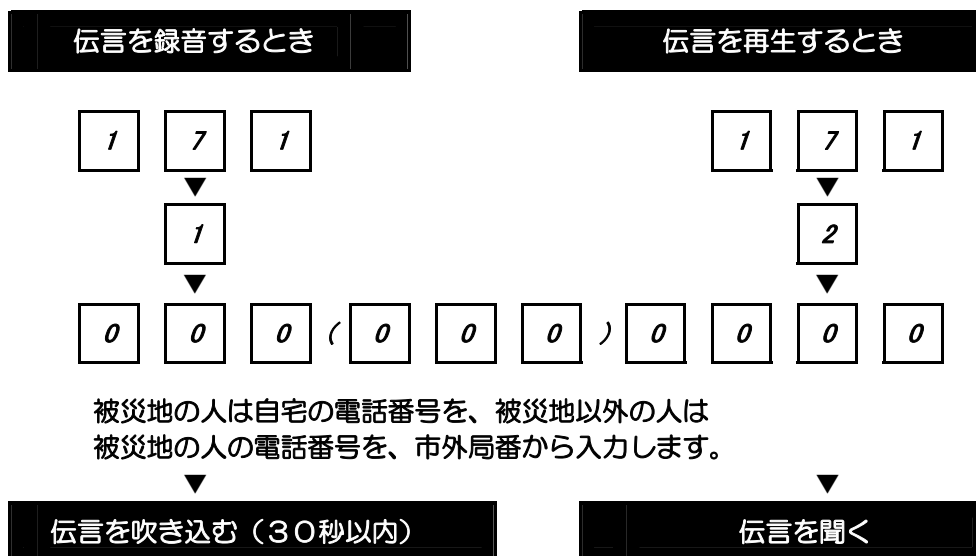
# 重大な災害が発生した場合

## ●安否確認システム



## ●災害用伝言ダイヤル「171」

NTTは、被災地への安否確認電話が集中する場合に「災害用伝言ダイヤル」サービスを開始します。被災地の方々の自宅の電話番号をキーにして、伝言の録音及び再生により、連絡を可能にするボイスメールです。被災地等への電話が殺到し、つながらない場合の有効な手段となります。



## ●公衆電話を利用する

災害発生時、公衆電話は一般電話よりつながりやすくなっています。自宅周辺の公衆電話設置場所を事前に確認しておくとう便利です。

## ●遠隔地に中継地点をつくる

災害時であっても、被災地から外部への電話は、比較的つながりやすいと考えられます。遠隔地の親戚や友人などに依頼して、連絡中継点をつくっておきましょう。

## ● 学生から家族に連絡する

できるだけ早めに、家族に対して自分の安否連絡をとりましょう。

## 防災の心得

日頃より、以下のことに留意し、身の回りの防災に努めてください。

- ☆ 喫煙は灰皿のあるところで行い、火の始末を確実に行う。
- ☆ 防火扉、屋内消火栓の前及び廊下、階段に障害物を置かない。
- ☆ 実験室においては、燃えやすいものを熱源の近くに置かない。
- ☆ 部室・ラウンジでは、常に整理整頓を心掛け、万一の際、安全に避難できるようにする。
- ☆ 学内で実施される消防訓練には積極的に参加し、消火器・避難器具の使用法について普段から慣れておく。

## 災害発生時における授業休講及び試験延期

災害等により授業及び試験の実施がきわめて困難な場合、以下のような措置がとられます。

授業や試験を実施するかどうか等の決定に関しては、できる限り速やかに情報を提供します。

### (1) 大規模地震の発生等の場合

- ① 仙台市全域において大規模地震が発生し、大多数の学生及び教職員の通学及び通勤が極めて困難で危険な場合、全キャンパスにおいて授業及び試験を実施しません。休講・試験延期の決定及びその後の措置については、できる限り速やかに情報を提供します。
- ② 仙台市全域を対象として、地震予知による大規模地震発生の可能性が発表され、休講・試験延期の決定がなされた場合、できる限り速やかに情報を提供します。

### (2) 台風・大雪・洪水等により公共交通機関が不通の場合

- ① 各キャンパスにおいて、以下に掲げる公共交通機関が不通のために、大多数の学生及び教職員の通学及び通勤が極めて困難な場合でも、授業・試験が実施可能な時間帯までに当該公共交通機関が復旧・開通したときには、以下のような取り扱いを行います。

キャンパス	公共交通機関	措 置
土樋キャンパス	大半の公共交通機関	●午前7時までに開通の場合、授業及び試験は、すべて実施します。 ●午前11時までに開通の場合、3校時以降の授業及び試験は実施します。
多賀城キャンパス	JR仙石線及び東北本線	
泉キャンパス	仙台市営地下鉄	

### (3) 休講及び試験延期、授業及び試験の再開に関する公示及び情報提供等については以下のとおりです。

- ① 情報提供は原則として報道機関を通じて行ない、可能な限りインターネットを通じても行ないます。
- ② 正式な公示は、可能な限り速やかに学内掲示により行ないます。

③ 問い合わせへの対応部署は、試験に関する事項は、土樋キャンパス教務課、多賀城キャンパス学務係及び泉キャンパス学務係、授業に関する事項は、土樋キャンパス学事課、多賀城キャンパス学務係及び泉キャンパス学務係となります。

(4) 公共交通機関の遅延による欠席者の取扱いは以下のとおりです。

不通の公共交通機関開通後においても、その影響による遅延や道路・交通事情等による通学上の障害のために、授業及び試験を受けられなかった場合については、下記のように取り扱います。

なお、詳細については、土樋キャンパス教務課、多賀城キャンパス学務係、泉キャンパス学務係、で相談してください。

欠席者	提出書類	書類提出先	取扱い
授業を受けられなかった学生	所定の「届出書」 (当該公共交通機関の発行する遅延証明書等の理由書添付)	所定の日時までに、土樋キャンパス教務課、多賀城キャンパス学務係及び泉キャンパス学務係、	欠席としての取扱いはしない
試験を受けられなかった学生	所定の「受験願」 (当該公共交通機関の発行する遅延証明書等の理由書添付)	所定の日時までに、土樋キャンパス教務課、多賀城キャンパス学務係及び泉キャンパス学務係	受験申請者については、科目担当教員による受験許可を要件としないで追試験が受けられる。

(5) 授業及び試験実施中に災害または事故が発生して、授業及び試験が中止される場合にも、(4)のケースと同じように取り扱われます。

## ●指定避難場所（学内指定避難場所を確認しておきましょう）

普段から号館名、教室番号、非常口、階段、出入口等をよく覚えておいてください。

